

# 新中央診療棟整備の概要



基本理念『安全で、やさしく、あたたかい医療に努めます。』

岐阜県東濃・可茂地域における基幹病院として、高度急性期・急性期の医療機能を拡充します。

外来・放射線診断・手術部門等のある中央診療棟を病院南側駐車場敷地で建て替えるとともに、東病棟の救命救急・集中治療部門等に移設し、高度急性期・急性期医療での機能統合・効率化を図ります。東病棟を改修し、中央診療棟の事務管理部門等に移設するなどして活用します。高度先進性、便利・効率・安全性及び拡張性(変化への対応)の向上・拡充を基本とし、整備・改修を行います。

## 2. 新中央診療棟整備・東病棟改修の概要

### < 新中央診療棟の概要 >

建設場所: 南側駐車場の跡地  
 延床面積: 23,189.95㎡  
 構造等: 地上5階、塔屋2階、鉄骨造、免震構造  
 東病棟改修面積: 12,858㎡のうち5,336㎡  
 新中央診療棟開設予定: 2024年4月

### < 整備・改修後の病院全体規模 >

病床数	新棟開設時		整備完了時	
	一般	結核	一般	結核
一般	499	13	499	13
結核	13	6	13	6
感染症	6	42	6	33
精神	42	560	33	551
計	560		551	

病院全体の延床面積: 64,841.20㎡ (約10,500㎡増)

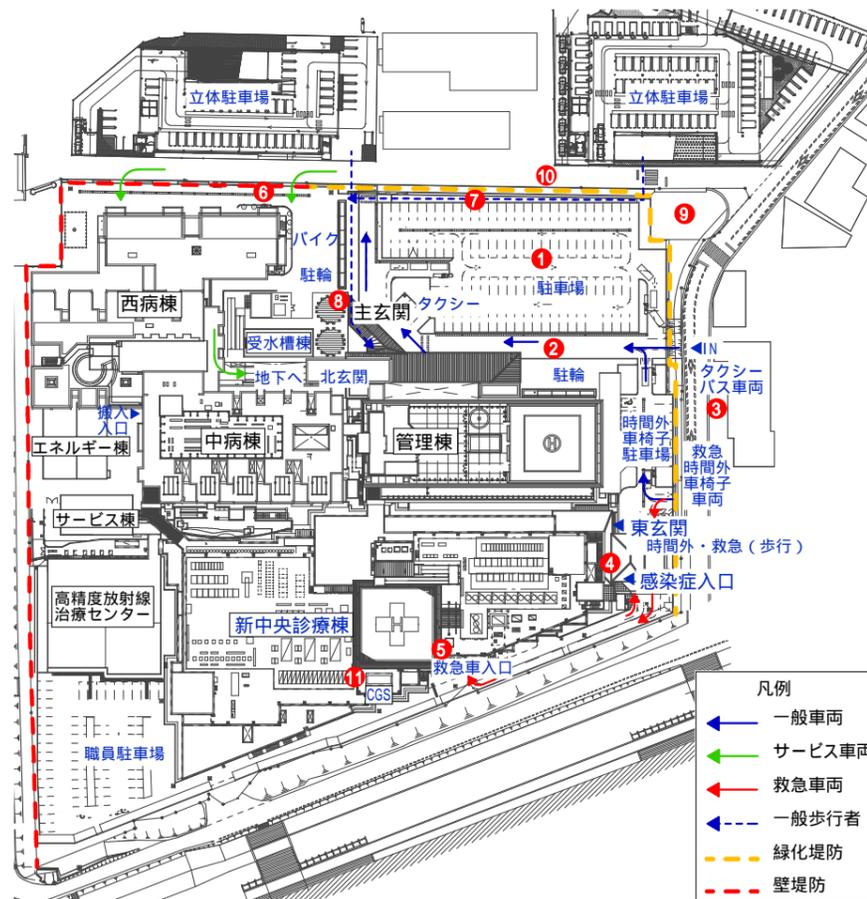
### < 概算総事業費 >

○ 新中央診療棟建設 (うち新中央診療棟本体)	125.6 億円 117.3 億円
○ 東病棟・中西病棟等改修	8.4 億円
○ 中央診療棟解体撤去 平面駐車場整備・外構	15.4 億円
<b>合計</b>	<b>149.4 億円</b>
○ その他 医療機器整備等	43.4 億円

### < 事業スケジュール >

区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
新中央診療棟新築工事		← 新中央診療棟新築工事 (28ヶ月) →	準備 (4ヶ月)	2024年4月 新棟開設		
既存棟改修工事				東病棟改修準備 (6ヶ月)	2024年12月 管理棟開設	2026年9月 完了
中央診療棟解体等工事				中・西病棟改修 (化学療法跡地等) (6ヶ月)	先行解体 受水槽設置北玄閣設置 (6ヶ月)	解体及び外構整備 (6ヶ月)

## 3. 配置計画



- 1 平面駐車場と立体駐車場を併用し、患者・職員用駐車場を確保します。
- 2 構内通路は一方通行として十分な長さを確保し、渋滞緩和を図ります。
- 3 一般利用者と救急、時間外利用者の入口を明確に分離し、分かりやすいアプローチとします。
- 4 主玄関とは分離して時間外・救急(歩行)、感染入口を設けます。
- 5 救急車入口までは専用動線とし、来院者の通行の妨げにならないようにします。
- 6 サービス用動線は他の動線と分離し、スムーズな運用を可能にします。
- 7 敷地内に歩行者通路を設け、安全に配慮します。
- 8 主な歩行者通路にアーケードを設けます。
- 9 既存の植栽帯は残し、地域の緑化に貢献します。
- 10 浸水対策として敷地境界に沿って緑化・壁堤防を設けます。
- 11 ガスによる自家発電設備・コジェネレーションシステム(CGS)を導入し、省エネと共に災害時対応としても活用します。

## 1. 基本的な考え方

### 高度先進的な医療機能の拡充

高度な医療技術と最先端の医療設備に対応した手術室11室 (ハイブリッド手術室・ロボット手術が可能な大手術室を含む)  
 救命救急センター整備による高度急性期医療機能の拡充 ICU8床・CCU3床・HCU9床  
 新生児センター(仮称)整備による周産期母子医療センター機能の拡充 NICU9床・GCU11床  
 化学療法センター整備による地域がん診療連携拠点機能の拡充 40床(東病棟2階改修)  
 更新・増設に対応でき、拡張性のある放射線診断部門の拡充  
 感染症対策にも十分配慮した内視鏡検査・治療部門の拡充

### 診療機能の効率性・安全性の向上

新中央診療棟への主要診療機能の集約化  
 検査説明センター(仮称)新設、ブロック受付方式による外来診療の効率化  
 外来日帰りセンター(仮称)の新設、処置・注射及び日帰り手術後リカバリーの効率化  
 効率的で安全な救急搬送動線の整備  
 災害医療のためのトリアージスペース整備

### 患者サービス・利便性・プライバシーの向上

- 患者・家族にわかりやすく、高齢者・障がい者等が利用しやすいユニバーサルデザインに配慮した動線・案内を整備
- ゆとりある外来、遮音を考慮した診察室・待合の整備による患者プライバシー配慮
- 患者総合支援センター(仮称)新設など、患者相談支援機能の充実
- 在宅療養支援センター(仮称)の新設
- 医療的ケア障がい児等とその家族等のためのレスパイト入院の実施
- 駐車場の立体化、コンビニ等の設備拡充
- セキュリティ向上のための設備拡充

### 防災・浸水・環境エネルギー対策の強化

災害拠点病院として大規模地震にも対応する免震構造  
 浸水リスクに対応するため、敷地外周に沿った緑化・壁堤防  
 エネルギー・機械設備の屋上配置と拡張性の確保  
 防災ヘリコプターが発着可能なヘリポート整備  
 高効率な熱源供給システム導入及び井水の補助熱源としての活用  
 ○ 井水の過システム導入による水源の二重化  
 環境にやさしい地元産タイルの外壁整備と県産木材の利用

# 4.平面計画

## 1階平面図



1階に救急、外来、中央採血、患者総合支援センターなど患者の利用頻度の高い部門を配置し利便性に配慮します。外来中央部には外来日帰りセンターを設け、処置・注射及び日帰り手術後リカバリーの効率化を図ります。救急から上階の手術部、救命救急センターへ直接アプローチできるエレベーターを配置します。

- PH1階 PH1階にガスによる自家発電設備・コージェネレーションシステム (CGS) を設置します。
- PH2階 PH2階にはヘリポートを配置し、エレベーターにて救急、手術、NICU、内視鏡に直結させます。

## 2階平面図



2階に外来、放射線部門を配置します。放射線部門は水害対策として上階へ配置し、また東側に将来拡張スペースを確保します。管理棟 (現東病棟) には、化学療法センターを患者が利用しやすい位置に配置します。外来はブロック受付とし、各診療科の位置がよくわかるよう配置します。

## 4階平面図



4階に手術部門と救命救急センターを配置します。手術室11室にはハイブリッド手術、ロボット手術が可能な大型の手術室を設けます。既存中・西病棟から手術室への経路には、連絡ブリッジを設けます。

## 3階平面図



3階に核医学、検査、内視鏡、整形外科病棟を配置します。救急と繋がるエレベーターから内視鏡部門に直行し、緊急対応をスムーズにします。既存中・西病棟から連絡ブリッジを設けます。

## 5階平面図



5階に新生児センター (仮称) (NICU・GCU) と小児・女性病棟を配置し、中・西病棟にある産科病棟とあわせて周産期母子医療センターの機能を設けます。小児・女性病棟に医療的ケア障がい児等のレスパイト入院用の病室を設けます。

# 5.地域ブランド活用・ホスピタルアート

内外装に岐阜県の豊富な資源である木材、地元で生産されるタイルを使用するほか、サイン、照明計画等においても美濃和紙等の地域資材を使用することで、患者、利用者にとってあたたかみのある空間を創出し、地域の顔となる建築を目指し、地域振興にも貢献します。



タイルを利用した外装 (既存中・西病棟)



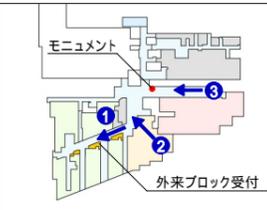
可児市在住の彫刻家 神戸峰男氏の作品で、2018年3月に中央診療棟中庭に設置したブロンズ像『生命 (いのち)』を、新中央診療棟1階の総合案内付近に移設します。



① 外来ブロック受付



② 総合受付・待合



- ① 外来ブロック受付
- ② 総合受付・待合
- ③ エントランスホール

エントランスホール 新中央診療棟と中・西病棟、管理棟 (現東病棟) とを結びつけ、将来にわたり病院動線の主軸となる空間として、県産集成材のカーテンウォールを配置したエントランスホールを設置します。災害時にはリアージスペースとして機能します。

- ① 左上図: 外来ブロック受付と待合空間のイメージ図。フロアの全てのブロック受付を一望でき、各診療科の位置がわかりやすい配置とします。
- ② 左下図: 総合受付・待合のイメージ図。美濃和紙を用いた照明器具を配置します。
- ③ 右 図: エントランスホールイメージ図。建物群を結びつけた主軸動線と、視認性の高い吹抜け空間を配置します。病院建物の全体を直感的に把握しやすくなり、利用者にとっての分かりやすさを実現します。



③ エントランスホール内観

- ・県産集成材のカーテンウォール
- ・地元産のタイルを使用したギャラリースペース
- ・ブロンズ像のモニュメント設置